

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470300860		
法人名	(有)日本サポートリンク		
事業所名	色えんぴつ・鈴鹿		
所在地	三重県鈴鹿市下大久保町2290-12		
自己評価作成日	平成25年8月12日	評価結果市町提出日	平成25年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様、職員に楽しく過ごせる環境作りを大切にと心がけています。利用者様の变化にすぐ対応できるよう、職員間の情報交換を密にし、よりよい環境と支援が出来るよう話し合い、実践につなげていけるようにしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

基本情報リンク先	http://www.kaijokansaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&jizvosvoCd=2470300860-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

鈴鹿市の北東部四日市市に隣接するところに、平成21年2月に移転をした。その前は、民家改築のホームであったが、手狭などの理由から新しく土地を求め、新築した1階建ての9人1ユニットのホームである。色えんぴつ・鈴鹿として、開所して10周年を迎えている。玄関わきに大きなクスノキがホームの目印、シンボルのようにそびえているのが、印象的である。周りは、工場や民家、畑があり、商店などは近辺に見当たらない。9人の少人数の中、一人ひとりに寄り添った介護が実践されている。利用者ともに、その家族を含めたケアが根付いている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成25年 9月 5日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしい生き方、暮らし方を支える事を大切に「あなたらしくいつまでも」居られるよう、職員同士の連携を強め、利用者様の尊厳を守り支援している	理念にある、“あなたらしく”から、利用者一人ひとりにどんな生活歴があるのか、センター方式を活用しながら利用者のホームでの生活がよい色になるよう職員が理念に基づいた介護の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	来訪者はもちろん、散歩時の挨拶や地域の行事への参加を出来るだけ行い交流を持つようになっている	自治会に協賛金などの協力はしているが、加入はしていない。町内の盆踊り、秋祭り、防災訓練には参加をしている。自治会役員の方が役員を降りてからも、お花を届けてくれるなどつきあいが継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族、自治会、民生委員の方が参加する運営推進会議などを通し、事業所で行っていることを提供し、何を協力できるかを伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月毎の会議の場において、施設の状況報告を行いながら、頂いた情報や意見、アドバイスを参考に支援に繋げるようにしている	奇数月に開催をしており、行政の参加は得ていないが、包括から参加がある。ホームの状況について報告をし、さらに研修などがあれば、報告も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者およびケアマネを中心に広域連合や地域包括支援センターと協力できるよう努めている	介護保険関係は広域連合になっており、施設長が窓口になっている。運営推進会議の議事録を提出するなど、頻繁ではないものの連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外出願望が強く、徘徊による行方不明になった方がおられるため、対策を試行錯誤したが、手立てが無く現在施錠しているが、代替方法を検討している	現在拘束にあたる利用者はいない。拘束については、利用者の状態により、その都度職員で話し合い、拘束をしないくてもいい方法を考え実行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に会議や職員同士で話し合っている。職員間で注意喚起し合い、今後も見逃すことの無いよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これまで権利擁護や成年後見人の利用も無く、職員が制度を学ぶ機会も少ない状態である		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時ともに十分な説明を心掛け、利用者様、ご家族様に納得していただけるよう、必要に応じた話し合いをさせて頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置はあるものの、ご利用はほぼ無く、面会ノートに提案・要望を記入できる欄を設け、ご家族からの意見や提案を反映できるようにしている	運営推進会議に出席要請をして、意見表出の場になっている。利用者別に面会ノートを作り、面会時にはそのノートへ必ずコメントを書いてもらい、意見・意向の把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングや状況に応じて話し合いの場を設けている。全員で話し合う機会を作るのは難しいが、常に個々の職員に対し、意見や提案を引き出すように努めている	毎月の会議や日々の会話、さらに「週報」を使って職員の意見が出されている。食材の買い物軽減を目的に、インターネットでの注文、配達をもらうシステムの導入が職員意見から出て、現在週2回取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価や管理者評価などを行い、一人ひとりが目標を持てるよう話し合い、日々の勤務を改善していけるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員のレベルにあった研修を取り入れるようにしている。会議の場で研修報告を行い、共有できるようにし、職員全体の能力向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などを通し他事業所との交流を持ち、情報交換をしながらサービス向上に繋げられるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人、家族と面会を行い、入居に至るまでの経緯を知ること、その方の思いをくみ取り、安心できる生活を提供できるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時に詳しくお話を聞けるようにしている。入居後も随時話し合う機会を設けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報を踏まえ、必要としていることを見極めるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の会話やコミュニケーションの中から、その方の思いを組み取りながら、支援が一方的にならないよう考えている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の関係性を理解することを基本に、協力していただける事はお願いすることで、本人と家族のつながりを継続していただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との縁は途切れないようにしているが、知人などが来訪される方はいない	家族・親族以外の訪問者はないが、今、うれしいことを喜びとしたいと第一に考えている。音楽療法を系列の色えんぴつ・四日市で定期的に開催しているので、出向いて一緒に楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の好き嫌いや、他利用者を困惑させてしまうような方が居たりするので、問題があるような時は職員が介入して、問題が大きくならないように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後でも見舞いや面会に伺うようにしている。亡くなられた時は葬儀に参列させて頂いている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行動の抑制や必要以上の声掛けは本人にとってストレスになりやすいため、危険の無い範囲での行動は見守り対応している。散歩・買い物・入浴など1対1の場で話せる機会を設けている。	何気なく発する言葉・表情、毎日の生活の中で察することなどから思いをくみ取っている。知りえた利用者の思いは、ケース記録に記載して職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式で頂いた情報を基に、日々の生活の中で本人・家族からお聞きした過去歴、習慣を把握できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、心身の状況には変化がある為、その日の気分、体調状況をくみ取って、個々の能力に合わせた支援を心掛けている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送り、会議で変化を共有している。ご家族からも面会時や電話などで思いや希望を伺っている。それらをどのように取り入れるか検討し作成している	二人のケアマネでアセスメントをとり、毎月職員で利用者全員のカンファレンスをしている。出された意見を反映して介護計画が作成され、再度職員で確認を行う。6か月の目標を立てケアマネが評価をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録を取り、情報を共有している。その情報を基に、個々の行動や変化を把握し現場に生かせるようにしている。変化が大きいときは24時間シートを活用しより細かく観察している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医以外の専門医への受診や、訪問歯科や訪問マッサージを取り入れたりとしながら必要なニーズに応えるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員の受け入れや、地域で行われる行事への参加などを行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診と共に月2回の往診も行っている。他医療機関との連携も行っている。また看取りの取り組みにも指導・助言を頂いている	受診は家族に依頼しているが、出来ない時は事業所で支援している。協力医がかかりつけ医の利用者には協力医の往診が月2回ある。協力医から他の医療との連携もできる。また、看取りについての助言指導も受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所には看護師は居ないが、協力医と連携をとり、相談援助を頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供、退院時の主治医への情報提供や意見交換が出来るようにしている。安定した状態で施設に戻るようになっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に簡単な意向はお聞きしているが、重度化、看取りとなった場合は、家族・主治医とその都度話し合いを持ち適切な支援が出来るようにしている	画一的に指針で決めるのではなく、その時の状況に応じて十分な話し合いを行っている。医療行為が伴うことになれば、事業所では対応できないが、自然に逆らわないことを希望する利用者には、医師・家族・職員間で話し合いをして対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急や急変時のマニュアルはあるが、まずは冷静な判断対応が出来るように普段から指導している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回から年6回に増やし職員全員が訓練に参加できるようにしている	本年度は1月に消火設備訓練、8月夜間を想定した避難訓練、9月地震を想定した訓練、秋にも避難訓練を計画実施している。また、3日分の食料品、ランタンの備蓄をしている。	いつ起こるかかわからない自然災害が頻発している。日ごろの介護の中から想定外の災害にも対応できるよう、身に着く訓練をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の状況に合わせた声掛け、支援を心掛けている	生活歴からその人の得意なことをやってもらい、役割の中から生きがいややりがいがある生活を支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を理解し自己決定に繋がるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな時間配分はあるが、個々のペースで生活できるよう努めている。その日の状態を把握し、変化に対応することも大切にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服を選べる方が少なくなっているが、好みのものを把握し、季節に合った服装を選んだり、衣類の清潔を心掛けている。定期的な手足の爪切りや2ヶ月毎のヘアーカットを行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ好みを取り入れるようにはしている。誕生日の特別メニューや外食も取り入れながら、職員と会話をしながらゆっくりと楽しめるようにしている	業者による食材配達を利用しつつ、買い物にも利用者と出かけている。畑で収穫した野菜を利用することもあり、下ごしらえや食器拭きなど利用者の出番もある。全介助の利用者もあり、介助をしながら職員も食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせて、食事形態や量に配慮をし、栄養バランスに気をつけている。水分はいつでも飲めるようポットにお茶を入れて置いたり、声かけをして飲んでいただくようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの実施をしている。自分で磨けない人は口腔ケアティッシュを利用して清潔を保てるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら、個々の排泄パターンを把握して、トイレ誘導を行っている。日中は出来るだけ布パンツを利用し、リハパン・パッドをはずせるよう支援している	排泄チェック表をみながら声がけし、トイレでの排泄を支援している。排便にも十分注意をしており、体調には配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつに排便を促す食材を取り入れたり、トイレで排便しやすい姿勢で座ってもらっている。日常的に体を動かすよう体操、散歩を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日置きに交代で入浴していただいているが、本人の希望があれば合わせている。汚染などがあつた時はその都度対応している	日曜日を除いて毎日お風呂は沸かしており、概ね、一日おき、午後の時間帯にゆっくりと入浴している。体調に合わせてシャワー浴、清拭を実施している。季節のゆず湯やしょうぶ湯も時期に楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者に合った寝具を考慮している。自由に自室やリビングで休息していただいたり、散歩や外気浴を行い、夜間眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は準備する職員、手渡す職員を分け、誤薬が無いよう二重に確認し、飲み残しが無いよう最後まで見守り確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活での役割分担、食器の片付け、洗濯物の整理など生活歴を活かせる様になっている。レクリエーションを取り入れ職員と共に楽しめるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状重度の人が多くなり、希望に添つての外出は難しい状態である。機会を見つけ散歩、買い物、ドライブ、外食など出来る範囲での外出支援を行っている	散歩や買い物に出かけたり、中庭にテーブル、椅子を置いて、ティータイムを楽しんでいる。また、季節に応じて花見、初詣で、イチゴ狩り、鳥羽水族館やなばなの里までの遠出もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方に対してはご家族と相談して小額の現金を所持していただいている。買い物時に欲しいものを購入することも少なくなり、時々促し購入する機会を設けていただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年年賀状を書いていただき出している。また遠方の家族からの届け物などがあれば、御礼の電話を利用者と共にしている。希望があればその都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事が済むとソファーに移って、くつろいでいただきます。個々の体感温度にあわせ、座る場所や衣類での調整を行っている。暖簾やすだれを使い季節感があるようにしています	食事をするテーブルの場所、テレビなどを見るところにはソファが置かれ、ダイニング・リビングを分けてゆったりと過ごす配慮がしてある。写真が数多く壁に貼られて、思い出づくりになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、ダイニング共、座りなれた場所、身体機能に応じた場所を工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけなじみにあるものを持ってきていただくようにお伝えしているが、少ないのが現状です。暮らしの中で増える写真や飾りなどを使いその人らしい個性のある部屋になるようにしている	西日のあたる居室にはすだれをして、調整がされている。ベットや置物など思い思いの家具などが持ち込まれているが、利用者によっては何も置かないシンプルな居室もあり、その人らしい設えになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	名札やぬいぐるみを使い、その人にとって「分かりやすい」工夫をしている。危険だから取り除くのではなく、どうすれば安全に暮らせるかを考えるようにしている		